

I. 公益財団法人仙台観光国際協会 令和7年度事業報告

令和7年度は、国内外での旅行博への出展、関係都市における観光プロモーションを行うとともに、観光地域づくり法人である「登録DMO」として、地域の多様な事業者等と連携しながら、市内西部・中心部・東部のエリアごとの観光地域づくり及び観光庁の補助金を活用した新たな観光コンテンツの創出等による交流人口の拡大に取り組んだ。また、仙台観光情報サイト「せんだい旅日和」を全面リニューアルするとともに、観光客の動向調査などデジタルマーケティングを強化した効果的なプロモーションを実施した。更に、物産品販売、体験イベントの定期開催等を通して、仙台の魅力発信と誘客促進を図った。

コンベンション推進については、各種助成制度の運用等による開催支援を継続して行うとともに、観光庁の補助金を活用しながら、MICE誘致の国際競争力強化に向けて海外商談会へ参加したほか、将来の国際会議主催育成のための地域・大学連携等促進事業を実施した。外国人住民に対しては、日本語学習の支援や生活オリエンテーション等の事業を通して、生活に必要な情報を提供するとともに、多文化共生センターにおいて多言語による相談対応や専門機関との連携による相談会を行った。

[公益目的事業]

1. 観光振興に関する事業

地域経済の活性化及び交流人口の拡大を図ることを目的に、国内外からより多くの観光客を誘致した。国内および海外からの観光客の動向については堅調に推移しており、香港、高雄、バンコク線の新規就航により、特に海外からの誘客については前年比で大幅な伸びとなった。海外プロモーションでは台湾からの招請事業をはじめ、台湾・タイの各旅行博への現地出展及びセールス活動を強化するとともに、インバウンド向け事業者への支援などに取り組んだ。国内プロモーションにおいては、大阪における就航都市プロモーションや教育旅行誘致に向けた新たな取組みの実施など、国内観光誘客に繋がる施策を積極的に展開した。

(1) 海外プロモーション事業

行政及び民間事業者等と連携して、アジアや欧米地域等からの訪日外国人観光客の誘致拡大を図った。

ア 誘致事業

観光目的地及び拠点としての仙台の認知度を高め、台湾やタイ及び欧米地域等からの訪日外国人観光客の誘致拡大をするため、観光客や関係企業及び団体等に対し、多様な形態で仙台の魅力等を発信した。また、旅行商品の造成・販売促進事業を実施した。

i. 台湾、タイ、欧米地域等における観光客誘致プロモーションの実施【重点】

関係団体と連携し、台湾、タイ及び欧米地域において旅行博やイベントへの出展や現地旅行会社セールスを実施するなど、仙台の認知度向上と来訪意欲の拡大、商品造成の促進に繋がるプロモーションを行った。

①台湾におけるプロモーション

- ・大台南国際旅展 2025 (TTF) 出展・商談会 (令和 7 年 11 月 20 日 (木) ～24 日 (月))
- ・高雄市旅行エージェンツセールス (令和 7 年 11 月 24 日 (月) ～25 日 (火))
- ・高雄市冬季国際旅展 2025 (KTF) 出展 (令和 7 年 11 月 28 日 (金) ～12 月 1 日 (月))

②タイにおけるプロモーション

- ・仙台市主催観光商談会 in バンコク (令和 7 年 7 月 23 日 (水) ～24 日 (木))
- ・The mall JAPAN DISCOVERY 2025 出展 (令和 7 年 7 月 25 日 (金) ～26 日 (土))
- ・東北観光セミナー・商談会・交流会 (TOHOKU NIGHT) (令和 7 年 11 月 20 日 (木))
- ・第 17 回ビジット・ジャパン FIT フェア出展 (令和 7 年 11 月 21 日 (金) ～23 日 (日))
- ・第 31 回タイ国際旅行博 (TITF) 出展・商談会・セールス (令和 8 年 1 月 20 日 (火) ～25 日 (日))

③欧米におけるプロモーション

- ・JNT0 パリ主催 Japan Food and Travel Fair 出展 (令和 8 年 1 月 23 日 (金) ～25 日 (日))

ii. 旅行関係者の招請【重点】

台湾、タイから現地旅行会社等を招請し、新たなコンテンツの創出やユニークベニュー等の視察、市内観光関連事業者との商談会等を行い、インバウンドの誘致拡大を図った。

①タイ旅行会社 (4 社) 招請 (令和 7 年 6 月 2 日 (月) ～6 月 6 日 (金))

東北観光推進機構及び他県連携のもと、東北への国際定期便路線運航再開に向けたプロモーションを実施した。

②台湾旅行関係者 (7 社) の招請 (令和 8 年 1 月 21 日 (水) ～26 日 (月))

臺南市旅行商業同業公會、臺北市旅行商業同業公會の役員を招請し、冬の仙台市及び近郊市町村の観光施設、体験コンテンツ等の視察、仙台市観光事業者との商談会、意見交換などを実施した。

iii. 国内インバウンド向け誘致の強化【重点】

①仙台港への外国クルーズ船の寄港誘致セールス及び受入対応力強化

- ・令和 7 年 9 月 4 日 (木) ～5 日 (金) / 5 社訪問、横浜クルーズ船ターミナル視察
- ・令和 8 年 3 月 13 日 (金) 3 社訪問 (首都圏)

②飛鳥Ⅲ船内での仙台観光 PR 実施

- ・令和 7 年 9 月 30 日 (火) ～10 月 2 日 (木) 釧路港出航から仙台港寄港までの仙台観光 PR
- ・令和 7 年 11 月 5 日 (水) ～6 日 (木) 常陸那珂港出航から仙台港寄港までの仙台観光 PR

③クルーズ船寄港時の外国人乗船者の受入対応 (外国船 6 隻、飛鳥Ⅲ2 隻)

観光案内デスクを設置し外国語での観光案内、団体ツアーバス・タクシーへの誘導、観光アンケート等を実施した。

④仙台市中心部の飲食店、仙台港周辺施設を記載した英語版観光マップを制作

iv. 欧米豪向けプロモーションの実施

欧米市場のミドル富裕層をターゲットとした誘客促進に向け、海外旅行社へのマーケットリサーチ、訴求力のあるコンテンツの磨き上げ、セールスツール・タリフの作成、米国を中心とする旅行会社やメディア (約 15,000 社) に対してのニュースレターの配信 (2 回) 及びウェビナーを 3 回 (参加者約 150 名) 実施した。

v. OTA（オンライン旅行代理店）掲載の推進

仙台市全域の海外 OTA 登録促進の向上を図るため、訪日外国人の FIT 化が進む欧米豪市場の販路拡大と JTB BÔKUN 等の在庫管理システムを用いた業務効率化を重点テーマに設定し、専門家による実践的な講演と個別相談会を提供し、海外 OTA 登録促進を向上させる内容のセミナーを実施した。

開催日：令和 8 年 2 月 27 日（金）会場：スタンダード会議室あおば通り 333 店

参加者：19 事業者 20 名、個別相談会参加者：11 事業者 11 名

vi. 仙台-バンコク直行便再開に伴う誘客促進事業

令和 7 年 12 月のタイ・エアアジア X による新規就航及び仙台-バンコク直行便再開に伴い、タイ・エアアジア X 及びタイ国政府観光庁（TAT）等と連携し、相互送客促進に向けた取り組みを実施した。

・旅行会社向けタイへのアウトバウンドセミナーの実施（令和 7 年 12 月 23 日（火））

一般社団法人 日本旅行業協会（JATA）東北支部共催、セミナー参加者 72 名

・インフルエンサー招請（令和 8 年 1 月 19 日（月）～23 日（金）※仙台市主催、他県連携）

イ 受入整備事業

仙台を訪れる外国人観光客等の仙台滞在中の満足度向上を目的に、関係機関等と連携し受入環境整備を図った。

i. インバウンドセミナーの開催

訪日外国人観光客への対応力向上、受入環境整備を図ることを目的に、宿泊施設・観光施設・交通事業者等を対象にインバウンド顧客に対する接客力、集客力アップにつながるセミナー・実践ワークショップを開催した。

①外国人観光客対応力向上セミナー&ワークショップ（接客編）かんたんカタカナ中国編

開催日：令和 7 年 9 月 2 日（火）、会場：仙台市中小企業活性化センター

参加者：14 名

②外国人観光客対応力向上セミナー&ワークショップ（接客編）カタカナ英語編

開催日：令和 7 年 9 月 19 日（金）、会場：仙台市中小企業活性化センター

参加者：16 名

③外国人観光客対応力向上セミナー（集客編：最新インバウンド動向、免税制度について）

開催日：令和 8 年 1 月 19 日（月）、会場：仙台市中小企業活性化センター

参加者：11 名

ii. インバウンド対応力向上に向けた事業者支援【重点】

レンタカー事業者及び温泉旅館組合を支援対象とし、現地調査を実施のうえ、安全啓発動画や秋保マップの制作等の受入環境整備、並びに SNS や Google ビジネスプロフィールの個別相談対応、Discover SENDAI ページの新規作成や改修、海外インフルエンサーを活用した SNS での情報発信等の集客及びコンテンツの販売促進等、インバウンド対応力向上に繋がる支援を実施した。

（2）国内プロモーション事業

仙台を訪れる国内観光客の一層の拡大を図るため、関係機関等と連携し、各種事業を実施した。

ア 観光行事等開催支援事業

地域観光行事等に対して協賛負担金を拠出し、観光振興の促進を図った。

i. 祭り・イベント開催の支援

仙台・青葉まつり、仙台七夕まつり、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、SENDAI 光のページェント等の実行委員会と連携し、お祭り・イベントの開催支援を行った。

イ 観光客誘致等推進事業

集客効果が高く、かつ仙台の認知度向上につながる観光関連企画や関係都市等において誘致プロモーションを開催し、仙台の魅力づくりと誘客促進を図った。

i. 関係都市等における観光客誘致プロモーションの実施

観光客の誘客促進を図るため、仙台市や山形市と連携し、仙台の観光プロモーション及び物産品の販売等を行った。

①伊達な仙台いいもの・いい旅フェア（大阪）（令和7年7月5日（土）～7日（月））

大阪「梅田七夕」と連携した七夕プロモーション

②仙台・山形観光物産展（埼玉県さいたま市）（令和7年11月21日（金）～23日（日））

ii. 旅行商品の造成支援

旅行会社が造成する旅行商品が掲載されたパンフレットに対し、仙台の観光情報等の掲載を条件として、その作成費用の一部を助成した。（8商品 計80万円）

iii. 仙台七夕まつり等祭り・イベントへの参画

仙台市内で開催される「仙台七夕まつり」等の祭りや様々なイベントを活用し、仙台の観光スポットや食、体験プログラム等、仙台の魅力をPRした。

iv. プロスポーツを活用した誘客促進及び情報発信

楽天マイチーム協議会に参画したほか、仙台市内プロスポーツチームの協力のもと、選手等が絵付けを行った「こけし」を「仙台市工芸展」において展示しPRを行った。

v. 観光誘致セールスの実施

旅行会社主催の商品造成商談会等への参加の他、東京「なかの東北絆まつり2025」に出展し、観光プロモーションを実施した。また、伊達政宗公の大河ドラマを誘致する会に参画し、仙台市とともにNHK（東京）を訪問し、大河ドラマ誘致に向けた要望活動を実施した。

・阪急交通社国内旅行商談会（令和7年5月21日（水）・令和7年11月12日（水））

会場 ウェスティンホテル仙台

・なかの東北絆まつり2025（令和7年10月25日（土）～26日（日））

会場 中野四季の森公園（東京都中野区）

ウ 教育旅行受入促進事業

教育旅行に対応できる仙台市内の宿泊施設や文化・観光施設等と連携し、本市への教育旅行に関する問合せや相談に関して、市内各施設の情報提供やコーディネートを行った。また、行政や民間企業等と連携し、旅行会社や他県の学校に対して、セールス活動や現地説明会等を行い、総合的な誘致活動を実施した。

i. 教育旅行誘致セールス等の実施

①仙台市、宮城県、伊達な広域観光推進協議会等と連携した北海道での現地プロモーション及び中学校教育旅行の誘致

- ・セミナー・商談会（令和7年11月26日（水））

場 所：ホテルマイステイズ札幌アスペン

参加者（北海道側）：12団体26名（中学校3校3名、旅行会社9社23名）

参加者（県内側）：13団体14名（自治体・観光協会等4団体5名、施設・民間9団体9名）

- ・セールス（令和7年11月25日（火）～28日（金））

セールス先：23か所（函館市、北斗市、札幌市ほか）（旅行会社6社、中学校16校）

- ・セールス（令和8年2月16日（月）～17日（火））

内 容：函館市内中学校2校、旅行会社等2か所へのセールス及び函館市中学校長会定例会における説明

②東北観光推進機構「教育旅行誘致部会」が実施する事業と連携した情報発信、東北教育旅行セミナー出席及び誘致セールスの実施

- ・札幌セミナー（令和7年7月1日（火））

参加者：中学校18校20名、旅行会社7社43名 / 東北側出席者50団体50名

- ・誘致セールス（令和7年7月2日（水）～3日（木））

セールス先：9か所（札幌市、苫小牧市）（中学校6校、旅行会社3社）

- ・大阪セミナー（令和7年9月3日（水））

参加者：旅行会社6社24名 / 東北側出席者42団体42名

- ・誘致セールス（令和7年9月2日（火）～5日（金））

セールス先：11か所（高根氏、大阪市、名古屋市、愛西市ほか）

（中学校2校、旅行会社6社、教育委員会ほか3か所、）

③伊達な広域観光推進協議会と連携した関東、中部、関西等から教育旅行の誘致

- ・千葉県教育旅行セールス（令和8年1月15日（木）～16日（金））

- ・神奈川県教育旅行セールス（令和8年2月12日（木）～13日（金））

- ・伊達な学び旅モニターツアーアテンド（令和7年12月25日（木））

関東地区を中心に学校関係者10名

④教育旅行受け入れ媒体及び資料等の作成・整備

仙台市内中心部で自主研修や事前学習、教育旅行の計画を行う児童・生徒向けのガイドブックや資料等を作成したほか、一部の資料をWEB化した。

- ・仙台自主研修ガイド（発行部数：10千部）

- ・教育旅行ガイドブック「せんだい未知知るべ」の全面リニューアル（発行部数：3千部）

- ・テーマ別、学習スポット「仙台見聞録」のデータ更新

エ 観光客受入整備事業

国内外からの観光客の利便性を向上させ誘致を拡大するため、体験プログラムなど魅力ある観光コンテンツの創出や磨き上げなど受入環境の整備、強化を行ったほか、エリアごとに関係機関との連携や支援を通じ、地域の稼ぐ力を引き出す観光地域づくりを進めた。

i. 体験プログラムの推進【重点】

体験プログラムの認知度を向上させ利用拡大を図るため、県内外の観光客に向けた体験ワークショップイベントの開催、SNS 等によるプログラムの情報発信、利用促進を目的とした事業者対象の研修会を実施した。

①「仙台ならではの体験プログラム」のモニター検証

観光客を呼び込める付加価値の高い体験プログラムを創出するため、関東圏の旅行会社の商品造成・販売担当者によるモニター検証を実施し、旅行商品への組み込みの可能性、販売適性、価格設定及び商品造成上の課題等を専門的観点から検証し、就航都市プロモーション等で活用するツール（タリフ）を作成した。

【仙台ならではの体験プログラム】（下記4つの体験プログラムをタリフ化）

切り絵で作る御朱印ワークショップ / 職人と作る銅食器クラフト体験

まちあるき体験仙台3大名物のご紹介！ / 玉虫塗ピッコログラス蒔絵体験

②「仙台旅先体験コレクションブース in 青葉山」の開催

仙臺緑彩館において、「仙台ならではの」体験プログラムワークショップを実施するブースを定期的に設置し、体験プログラム事業者等と連携を図りながら、観光拠点としての青葉山エリアの魅力向上を図った。

【仙台旅先体験コレクションブース in 青葉山】

期間：令和7年6月7日（土）～令和8年3月29日（日）

※期間中の土・日・祝日および仙台七夕まつり期間

内容：青葉山公園 仙臺緑彩館内 特設スペースにて、「仙台旅先体験コレクション」の登録事業者1社が出店し「仙台・宮城・東北」を感じられる体験プログラムを提供。観光客に向けた体験プログラムの認知度向上を図った。

開催回数：94回 / 体験者数：1,901名

③宿泊促進と消費拡大に繋がるナイトタイムエコノミープログラムの創出

宿泊需要促進のため、ナイトプログラムやイベントをサイトに掲載したほか、前泊需要に繋がる早朝プランを創出し、プロモーションを行った。

④研修会や交流会など、体験プログラム運営事業者への支援

「仙台旅先体験コレクション」登録事業者の集客力増加、仙台圏における体験コンテンツの利用促進を図るため、旅なかにおける旅行者の行動傾向などに焦点を当て、体験コンテンツの効果的なPR方法や受入体制の整備について専門的な立場からアドバイスを行う研修会を開催した。

開催日：令和8年2月6日（金）、会場：仙台市中小企業活性化センター

参加者：21名（20事業者）

⑤「仙台旅先体験コレクション」の管理運用等

Webサイト「仙台旅先体験コレクション」の管理運用を行うと共に、令和8年1月に「せんだい旅日和」とページ統合し、地域OTAの搭載による機能強化を図った。

⑥大阪・関西万博を契機としたインバウンド向け体験プログラムのプロモーション

大坂関西万博公式観光ポータルサイトへ、仙台圏の体験プログラムの掲載支援を実施した他、訪日客をターゲットとしたパンフレット「Tohoku Activities Guide」（英語・繁体字）を作成し、希望する仙台の宿泊施設に配架することで、体験プログラムのPRと利用促進を図った。

- ・掲載プログラム数：14
- ・パンフレットの作成：英語/繁体字 各 15,000 部
- ・配下・送付先宿泊施設数：62 か所

ii. 観光地域づくりの推進【重点】

仙台市内を4つのエリア（作並・定義、秋保、中心部、東部）に分け、それぞれのエリアごとの特徴や多種多様な魅力を最大限活用するため、コンセプトに基づいた事業を展開し、ブランドの確立を図った。

①中心部：「歩いて発見伊達なまち～あなたのとおきを見つけよう～」

- ・中心部まち歩き案内所「歩いて発見伊達なまちステーション」の開設
青葉山公園仙臺緑彩館に中心部のまち歩き案内所を設置した。

開設期間：令和7年6月7日（土）～令和8年3月29日（日）

上記期間内の土・日・祝 及び七夕期間 計 98 日間

来訪者数：343 名

- ・ガイド付きまち歩きツアー「歩いて発見伊達なまちツアー」の実施
仙台城跡・登城路ツアー等、仙台市中心部をガイドとともに歩くツアーを催行した。

実施期間・回数：令和7年8月～令和8年3月の土曜日を中心に計 68 回

参加者数：148 人

②東部：「くらしに+せんだい海手リゾート宣言」

東部エリアの周遊・再訪促進のため、デジタルスタンプラリーを実施した。

- ・「仙台海手 ぐるっとつながるシーサイドラリー」（共催）

期間：令和7年7月18日（金）～8月24日（日）／ 総エントリー数：1,034 名

- ・「せんだい海手リゾートスタンプラリー2025（第2弾）」

期間：令和7年9月19日（金）～11月30日（日）／ 総エントリー数：786 名

③秋保：「秋保クラフトバレー～Craftmanship&Nature～」

観光庁「地域観光魅力向上事業」採択事業として、仙台・秋保の手しごと（クラフト）の神髄に触れる 器・食・酒の三位一体で楽しむ地産地消の食体験「秋保御膳」の魅力強化事業にて4事業を実施した。

- ・秋保の職人が制作した器で地域の食を楽しむ地産地消の食体験「秋保御膳」プランの造成、販売開始（伝承千年の宿佐勘）

- ・宿内で秋保の職人によるトークショーやワークショップを行う「クラはく」の実施

- ・秋保工芸の里 熊野洞にて2日間の「物の本質に触れる本格クラフトプログラム」の造成

- ・「秋保クラフトバレースタンプラリー2025」（令和7年11月4日（火）～令和8年1月12日（月））実施。総エントリー数：1,454 名

④作並、定義：「ゆっくりじっくり作並定義リトリート」

ブランドコンセプトである「ゆっくりじっくり 作並・定義リトリート」を訴求する秋季・冬季の動画を制作するとともに、InstagramでのSNS広告配信によるプロモーションを展開した。

配信期間：令和8年2月18日（水）～令和8年3月16日（月）

iii. デジタル再生古地図街歩きによる青葉山エリアプロモーションの実施【重点】

令和6年度に開発した「仙台城下再生古地図」を活用し、仙台市文化財課と連携し教育旅行の

新たな自主研修の取り組みとして「仙台城プログラム」の開発を行うとともに実証事業を行った。

①仙台城プログラム実証事業の実施

開催日：令和7年11月21日(金)、会場：仙台市内、仙台市博物館、仙台城跡

内 容：仙台市内の中学校（234名）の郊外学習の中で、「仙台城プログラム」の実証事業を実施。事前にデジタル再生古地図を授業カリキュラムに取り入れてもらうとともに、班別自主研修を行いながら本プログラムの検証を行った。

iv. 宿泊事業者の人材確保の支援【重点】

市内ホテル・旅館の喫緊の課題である人手不足解消と客室稼働率の向上を目指し、労使双方を対象とした研修動画をスポットワーク事業者と連携し制作した（全3本）。求職者への情報発信や事業者への啓発に役立てることで、柔軟な雇用形態の定着を推進する支援を行った。

v. 観光ボランティアガイド団体の活動支援

①観光ボランティア団体等への助成

仙台市内で活動する観光ボランティア団体が主催する事業等に対して助成を行った。

交付件数：7団体（9件）、交付金額：491千円。

②市内街歩き企画「仙台城登城路を歩こう」

期 間：令和7年11月8日（土）～24日（月・祝）の土日祝日 ※全7回

内 容：観光ボランティアガイド団体と連携し、仙臺緑彩館から仙台城本丸跡までの登城路を会場に、市内街歩き企画を実施した。参加者：96名

③「観光・おもてなし研修会」

期 間：令和7年11月3日(月) エル・パーク仙台 ギャラリーホール

内 容：仙台の歴史・文化を伝える新たなコンテンツとして制作された「仙台城下デジタル再生古地図」の使い方や街歩きについての講演会を実施し、観光ボランティアガイド団体の活動を紹介するPR会を行った。

参加者：61名

④「仙台 伊達な名所巡りまちあるきマップ」作成

仙台市内に活動拠点を有する観光ボランティアガイド団体の観光客誘客促進及び主要観光地PRを目的として、旅行者自身の街歩きを促す「伊達な名所巡り&仙台市観光ボランティアガイドのご案内」リーフレットの改訂増刷を行った。

発行年月：令和7年10月

発行部数：3,000部

vi. 街角案内所における情報発信

市内の商業店舗等と連携して設置している街角案内所15施設において、観光情報をはじめ定期的な情報発信とパンフレット類の提供を行ったほか、全箇所の利用状況調査を実施した。

vii. アドベンチャーツーリズムの推進【重点】

観光庁「地域周遊促進事業」補助金を活用して仙台市西部地区（泉・秋保・作並定義）を中心にモデルコース10本を造成し、ターゲットである欧米豪・台湾向けに英語及び繁体字のガイドブックを作製した。ガイド育成事業では国際的資格であるLeaveNoTraceやファーストエイド講習、地域文化の研修も実施したほか、日本アドベンチャーツーリズム協議会主催のATアカデミーを受講することでガイドを3名育成した。

viii. 東北の人と文化を基軸としたローカルツーリズムの推進【重点】

東北におけるローカルツーリズムを推進するため、増加しているインバウンド向けのプログラムの造成・磨き上げを専門家によるモニターツアーを実施するなどして行い、海外販路構築に向けたタリフを作成した。また、インバウンド向け英語版ウェブサイトの構築を行い、SNSなどを活用した一体的な情報発信を行った。

・プログラム数 12 件（東北各県 2 件）

モニターツアー（各回専門家 3 名を招請した視察）実施回数：2 回

北東北（令和 7 年 10 月 30 日（木）～11 月 1 日（土））

南東北（令和 7 年 11 月 12 日（水）～14 日（金））

・情報発信

構築サイト：日本向け公式 Web サイト「ここふる東北」の英語版

情報発信：仙台市公式 Instagram「Discover SENDAI」において計 13 件投稿

ix. スポーツコミッションとの連携による地域周遊の促進【重点】

地域での周遊促進・消費に繋げるため、スポーツコミッションせんだいと連携し、スポーツ大会等参加を目的に本市へ来訪した方々を対象に、仙台市内の観光施設や日帰り温泉、お土産店等で利用できるデジタルクーポンの発券を行った。

・「日本リトルシニア第 16 回林 和男旗杯野球大会」「日本リトルシニア第 8 回 Girls

Championship」※同時開催

名称：仙台お楽しみ体験クーポン / 利用可能施設：9 施設

利用期間：7 月 22 日（火）～7 月 31 日（木）（10 日間） / デジタル配布

・「第 42 回全日本シニアバドミントン選手権大会」

名称：仙台周遊クーポン / 利用可能施設：23 施設

利用期間：11 月 22 日（土）～11 月 30 日（日）（5 日間） / 配布枚数：4,000 枚

x. 他団体との連携による情報発信

宿泊施設・観光施設・交通事業者等と連携した誘客の促進を図った。また、「仙台牛たん振興会」作成パンフレット「仙台牛タンマップ」における情報の発信等に協力した。

xi. 仙台まるごとバス運営協議会等の事務局運営

仙台圏の二次交通商品「仙台まるごとバス」と「るーぷる仙台」の宣伝・販売促進を担う「仙台まるごとバス運営協議会」及び「仙台市観光シティループバス運行協議会」事務局を運営した。

①仙台まるごとバス運営協議会事務局運営

・料金改定（令和 8 年 3 月 14 日（土））に向けた協議および宣伝ツールの改訂

・リーフレット、ポスター、特典ブック等の作成、バス販売促進策の推進と広報宣伝の実施

・利用者アンケートの実施

・令和 7 年度販売実績：21,858 枚（前年度比 111%）

②仙台市観光シティループバス運行協議会事務局運営

・市道仙台城跡線の通行止め解除に伴うルートの変更周知

・リーフレット等の作成と活用、乗車実績向上にむけた広報宣伝の実施

・令和 7 年度るーぷる仙台利用実績：5,593,562 名（前年度比 130.1%）

(3) 仙台西部地区観光振興事業

仙台的観光振興にとって重要なエリアである仙台西部地区（秋保・作並・定義・泉西部）が有する様々な観光資源を磨き上げ、仙台西部地区への誘客及び仙台市内の周遊を促進するため、関係者との情報交換や地域で行われる事業に対する支援、並びに当該地区の魅力発信や受入環境の整備事業を展開した。

ア 西部地区観光振興事業

i. 観光振興事業の助成【重点】

仙台西部地域で活動する団体が、観光資源を活用した誘客促進や観光客の受入環境整備等の観光振興を目的として実施する事業に対して、経費の一部を助成した。

実施地区	件 数	金 額
秋保地区	9 件	6,793,000 円
作並・定義地区	7 件	5,079,000 円
泉西部地区	2 件	1,020,000 円
合 計	18 件	12,892,000 円

ii. 仙台西部観光振興推進協議会の運営

仙台西部地区の一体的な観光振興を図るうえでのニーズ等を集約する観光事業者組織「仙台西部観光振興推進協議会」の事務局を運営した。

- ・第 38 回会議（令和 7 年 4 月 22 日（火））当協会会議室 出席者 9 名
- ・第 39 回会議（令和 7 年 7 月 3 日（木））当協会会議室 出席者 8 名
- ・第 40 回会議（令和 7 年 9 月 16 日（火））当協会会議室 出席者 7 名
- ・第 41 回会議（令和 8 年 1 月 26 日（月））当協会会議室 出席者 7 名

iii. 仙台市西部地区観光地域おこし協力隊の活動支援

仙台市西部地区観光地域おこし協力隊活動支援業務を受託し、令和 6 年度に採用した 2 名に令和 7 年度は新たに 1 名を加えて 3 名体制を構築し、作並・定義地区、泉西部地区において地域の関連団体との連携を深め、各地区の特性に応じたイベント支援や情報発信など協力隊の活動支援を行った。

イ 秋保地区の観光振興に関する事業

秋保地区の観光振興を目的に、地域で行われる事業の調整・PR を行うとともに、魅力向上に繋がる企画の実施や街路灯・案内看板等を管理し、観光客を迎え入れる環境を整備した。

i. 観光施設等の維持管理

秋保温泉の街路灯施設、案内誘導柱、案内看板、歓迎こけし塔等の維持管理等を行った。

ii. 秋保温泉郷旅あるきマップ等の作成

秋保地区の観光施設や飲食店等を紹介する「秋保温泉郷旅あるき MAP」（7 万部）を作成・配布し、観光客に対し同地区の魅力を発信した。

iii. 観光行事の開催支援(秋保)

秋保温泉活性化事業、大東岳山開き、まつりだ秋保等の開催に向けた広報、運営支援をした。

ウ 作並・定義地区の観光振興に関する事業

作並・定義地区の観光振興を目的に、地域で行われる事業の調整・PRを行うとともに、魅力向上に繋がる企画の実施や街路灯・案内看板等の管理を行い、観光客を迎え入れる環境を整備した。

i. 観光施設等の維持管理

作並温泉や定義地区の街路灯施設、歓迎こけし塔、歓迎塔、案内看板等の維持管理を行った。

ii. 作並温泉郷・定義旅あるきマップ等の作成

作並・定義地区の観光施設や飲食店等を紹介する「仙台北作並温泉・定義旅あるき MAP」(4万5千部)を作成・配布し、観光客に対し同地区の魅力を発信した。

iii. 観光行事の開催支援(作並定義)

作並・定義地区で開催される定義如来夏祭り、ほっこり作並雪まつり等の開催を支援した。

エ 泉西部地区の観光振興に関する事業

泉西部地区の観光振興を目的に、地域で行われる事業の調整・PRを実施するとともに、魅力向上に繋がる企画を実施した。

i. 泉西部旅あるきマップ等の作成

泉西部地区の観光施設や飲食店等を紹介する「泉西部旅あるき MAP」(1.5万部)を作成・配布し、観光客に対し同地区の魅力を発信した。

ii. イベント等の開催支援

泉西部地区で開催される泉ヶ岳山開き、泉ヶ岳悠遊フェスティバル等の開催に向けた広報、運営支援等を実施した。

(4) せんだい・宮城フィルムコミッション運営事業

映像作品を通じた地域振興・観光振興を目的に、映像製作者を対象にロケーション撮影に必要なロケ地に関する情報提供、撮影許認可の簡素化への協力、市民エキストラの手配等の支援を行った。また、支援作品が公開・放映される際の宣伝活動を実施した。

i. ロケーション撮影誘致と支援業務

紙媒体及び動画を活用した誘致ツールを作成するとともに、国内の映像作品を中心に、関係各所と連携しながらロケーション撮影を支援した。

- ・賛助会員ロケーションガイドの制作(11市町等 データ納品)
- ・映像制作者がテレビ番組等で自由に利用できる動画コンテンツの制作
(蔵王エリア、瑞鳳殿、鳴子エリア)

ii. 地元ロケ作品の積極的なPR活動の展開

年度内に5作品が公開され、関係各所と連携したプロモーション活動を実施した。

また、NETFLIX映画「新幹線大爆破」、映画「兄を持ち運べるサイズに」、テレビ東京ドラマ「元・科捜研の主婦」、を活用したプロモーションを実施した。

iii. 地域啓発事業

- ・地元メディア及び紙面媒体等を通じたフィルムコミッション活動の告知
- ・仙台短編映画祭2025への参画
- ・職場体験学習の受入(塩竈市立塩竈第一中学校)

iv. 支援実績

- ・映画、TV 番組、CM、書籍等 支援件数 201 件（うち撮影実績 58 件）

v. 経済効果

当事業の実施による宮城県全体に対する経済効果は下記のとおり。

- ・令和 7 年度直接経済効果：約 4,932 千円
- ・産業連関表に基づく二次波及効果：約 4,300 千円

（５）仙台・青葉まつり支援事業

大規模な祭りの魅力を活かした観光客誘致拡大を目的に、仙台・青葉まつりの運営支援や、伊達政宗公山鉾展示等を行った。また、青葉まつり開催に合わせて、伊達政宗公の霊廟「瑞鳳殿」において仙台の銘品・工芸品の奉納し、瑞鳳殿資料館で展示した。

「第 41 回仙台・青葉まつり」は令和 7 年 5 月 17 日（土）～18 日（日）の 2 日間、西公園、勾当台公園、定禅寺通等を会場に開催され、市内外から約 90 万 8 千人が来場した。

2. 物産振興に関する事業

仙台地域の伝統文化の継承と発展に寄与することを目的として、仙台の物産品、銘産品を紹介するパンフレットの作成、WEB サイトでの PR などにより販路拡大に取り組んだ。また、伝統的工芸品等の展示会を開催し、その魅力を広く伝えとともに、後継者の育成を支援した。

（１）物産振興に関する事業

i. 物産品等による観光客誘致プロモーションの実施【重点】

①関係都市等への物産品 PR

- ・伊達な仙台いいもの・いい旅フェア（大阪市）（令和 7 年 7 月 5 日（土）～6 日（日））
- ・仙台・山形観光物産展（埼玉県さいたま市）（令和 7 年 11 月 21 日（金）～23 日（日））

②展示会・物産展等出展

- ・夏の仙台いいものフェア（令和 7 年 8 月 5 日（火）～8 月 8 日（金）） / JR 仙台駅 2 階
- ・2025 仙台・宮城の味と技フェア（令和 7 年 5 月 12 日（月）～18 日（日）） / JR 仙台駅 2 階
※仙台・青葉まつりと連携しての開催
- ・震災復興支援に係る物産展開催要請協力（広島県広島市立広島商業高等学校）
（令和 7 年 12 月 6 日（土）～7 日（日））
- ・仙台こけしフェア（令和 7 年 11 月 15 日（土）～16 日（日）） / 仙臺緑彩館 交流体験ホール
- ・羽生結弦 notte stellata2026（令和 8 年 3 月 7 日（土）～9 日（月）） / セキスイハイムスーパーアリーナ

ii. 仙台市工芸展の開催

令和 8 年 2 月 20 日（金）～3 月 1 日（日）、エスパル仙台本館を会場に、仙台の工芸品の展示・販売会を開催した。

iii. 物産パンフレットの作成

「仙台銘品ガイド」を改訂リニューアルし、食品・工芸のガイドブック 2 種の配架を実施した。

iv. 伝統的工芸品製造者等の後継者人材育成

「地域おこし協力隊」を活用して伝統的工芸品製造事業者の後継者育成に支援した。また、地域の子供が伝統的工芸品に触れる機会の創出を目的に、伝統文化親子体験イベントを開催した。

- ・夏のせんだい技フェス（令和 7 年 8 月 23 日（土） / 仙臺緑彩館）

v. 地元銘品・銘菓や伝統工芸品等の奉納と展示（奉納の会：令和 7 年 5 月 8 日（木））

瑞鳳殿で地元銘品等を伊達政宗公に奉納するとともに、奉納品を「瑞鳳殿資料館」に展示した。

vi. 物産関係団体との連携による情報発信

- ・宮城県物産振興協会・観光土産品公正取引協議会との連携
- ・仙台商工会議所との連携
- ・仙台市産業振興事業団との連携
- ・仙台・福島・山形三市観光・物産広域連携推進協議会との連携

3. コンベンション推進に関する事業

コンベンション開催による地域経済の活性化及び交流人口の拡大を目的に、当協会が有するネットワークや知見等のノウハウを有効に活用し、コンベンションの情報収集、誘致、支援等を行った。

（１）コンベンション誘致・支援事業

ア コンベンション助成事業

国際・国内会議の開催を仙台市に誘致するとともに、コンベンションの円滑な運営と成功に寄与することを目的に、コンベンション主催者に対して各種助成等を行った。

	項 目	件 数	金 額
i	コンベンションの開催助成(国際会議・国内会議)	38 件	26, 231, 260 円
ii	分散開催コンベンションへの助成	5 件	4, 250, 000 円
iii	市民公開講座の開催助成	7 件	1, 028, 000 円
iv	仙台M I C Eおもてなしメニューの助成	16 件	1, 442, 000 円
v	仙台企業系会議・報奨旅行の助成	12 件	3, 020, 000 円
vi	コンベンション開催・準備資金の貸付	0 件	

イ コンベンション誘致事業

仙台でのコンベンション開催や報奨旅行等の誘致拡大に向けて、関係団体と連携してセールスや招請活動を行うとともに、IME（国際 MICE エキスポ）など各種展示商談会への出展を通じて本市の魅力を PR した。

i. 首都圏等における誘致セールス

- ①首都圏や東北大学を中心とした地元の会議キーパーソンへの誘致活動を訪問やオンラインで実施した。首都圏（4 回：12 件）、首都圏キャラバン（24 件）、東北大学（10 回：45 件）
- ②東北大学各キャンパスにおいて大学関係者の方を対象に、「コンベンション開催支援セミナー」を開催し、協会の支援事業の説明を行った。

令和 7 年 10 月 15 日（水）、11 月 5 日（水）、12 月 5 日（金） 参加者合計：22 名

ii. M I 誘致セールス【重点】

①企業が実施する M、I に関する誘致として、首都圏の旅行代理店への訪問を中心に、仙台市内の旅行代理店や宿泊施設等含め 18 ヶ所へセールスを実施した。

宿泊施設：3 施設 MICE 施設：2 施設 旅行代理店：13 社

②令和 7 年 4 月 1 日(月)～令和 8 年 3 月 31 日(月)の期間、会議等の開催の促進ならびに宿泊および MICE 施設の利用促進を図るため、会議等の開催経費を一部助成する「仙台企業系会議・報奨旅行等開催助成」を実施した。

iii. I M E (国際 M I C E エキスポ) への出展

令和 8 年 2 月 12 (木)、国内外の MICE 主催者を対象に商談を行う「IME2026」(主催：JCCB (日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー)、JNTO (日本政府観光局))に出展し、会議主催者等と商談を実施した。商談件数：28 件

iv. コンベンション主催者の招請

仙台を開催候補都市の一つとして検討している国際会議や全国会議の主催者を招請する視察への対応を行った。

v. I C C A (国際会議協会) データの活用および情報収集

ICCA のデータベースを利用した有力な国際会議の情報を収集した。2024 年の国際会議の統計をまとめた ICCA ランキングで、仙台の開催件数は 13 件で、アジア地区では 36 位、国内都市では 9 位だった。

vi. 東北地区コンベンション合同誘致商談会への参加

令和 7 年 12 月 2 日 (火)、都市センターホテル(東京都)で開催された東北地区コンベンション推進協議会主催の誘致商談会において商談セールスを実施した。

来場者数：21 団体 30 名 商談件数：16 件 (出展：仙台を含む 16 団体)

viii. I C C A 事業の拡充

総会に参加してコンベンション市場の最新の動向や開催情報を得るとともに、関係者とのネットワークを広げ、国際会議の誘致に結び付けた。

viii. 国際 M I の誘致【重点】

①地域経済への影響が大きく有望な拡大市場である海外ミーティングやインセンティブ旅行の誘致に積極的に取り組んだ。

令和 7 年 9 月 24 日 (木) ～27 日(土)、海外のインセンティブバイヤー対象に商談を行う「VISIT JAPAN トラベル & MICE マート 2025」(主催：JNTO (日本政府観光局))に出展し、商談を実施した。商談件数：36 件。

②JNTO 主催インセンティブ旅行商談会に参加し、海外のインセンティブバイヤーに仙台の PR を行い誘致を促進した。

- ・令和 7 年 8 月 6 日 (水) タイ / 令和 7 年 8 月 27 日(水) 韓国 /
- 令和 7 年 9 月 18 日 (木) 台湾 / 令和 7 年 11 月 4 日 (火) シンガポール /
- 令和 8 年 1 月 21 日(水) フィリピン

ix. 青葉山 M I C E ビッドペーパーの作成

仙台へ MICE を誘致するためのツールとして主催者に提供するビットペーパー (誘致提案書) のひな型 (英語版) を作成した。

x. M I 誘致のための広域連携事業の運営

令和6年度に観光庁事業で設立した「仙台広域MI誘致協議会」の事業を継続し、広域でのMI誘致に取り組んだ。

ウ コンベンション支援事業

仙台市で開催されるコンベンションの円滑な運営と成功を目的に、コンベンションの主催者等に対して、事前準備から開催まで、各段階に応じた的確な支援を実施した。また、各種支援ツールの作成および受入態勢の強化により国際会議ボランティアの育成・派遣によるおもてなしの向上を図った。

i. 分散開催コンベンション促進地下鉄一日乗車券の利用支援【重点】

仙台市において会場を分散し行われるコンベンションを対象に、仙台市市営地下鉄一日乗車券を配付し、参加者の利便性を図るとともに回遊促進を行った。

ii. MICEサポートセンターの運営

コンベンション等MICE受入を目的とした各種情報の収集、セミナー等の開催を行った。

①「令和7年度MICEレベルアップセミナー」

開催日：令和8年2月4日（水）、 / 仙台国際センター

内 容：東北大学大学院環境科学研究科 教授 松八重一代氏による「MICE開催における持続可能性配慮」に関する講演と、おもてなし研究会事例発表

参加者：32名

②その他支援

観光などのパンフレット、コンベンションバッグ（有料）の提供を行った。

iii. 学会誘致のための東北大学等との連携強化【重点】

学会誘致における国際競争力向上のため東北大学等と連携し、若手研究者など将来の主催者に対しコンベンションの開催環境や支援体制の周知及び主催経験者らと交流する催事「ユニークベニューでの国際会議ネットワーキング」を青葉山エリアにおけるユニークベニューで開催し、人材育成と開催地としての魅力向上、受け入れ態勢強化に取り組んだ。

開催日：令和7年11月26日（水）

場 所：仙臺緑彩館・仙台市博物館

参加者：102名

iv. コンベンション誘致・支援キットの作成等

文化観光施設割引券、各種支援案内、MICE充実ガイド、仙台コンベンション開催業務サポーターを更新した。

v. 国際会議ボランティアの育成・派遣

①「仙台コンベンション学生サポーター説明会」

開催日：令和7年6月8日（日）

内 容：新加入した学生サポーターに対し、当協会の事業内容や国際会議の概要、学生サポーターの役割などについて説明を行った。

参加者：46名

②令和7年度国際会議ボランティアシンポジウム」

開催日：令和7年10月4日（土）

内 容：MICEにおけるサステナビリティ推進の観点から、仙台市の防災の取り組みをレジリエンスサミットの事例を紹介し、ボランティア活動時の災害発生時に英語での案内方法について講義を行った。

参加者：35名

③ボランティア派遣

「第60回アジア太平洋航空局長会議」ほか9件の国際会議に登録ボランティアを派遣し、ホスピタリティデスクや各種案内の補助を行った。

ホスピタリティデスク設置：3件

vi. コンベンション開催時の歓迎表示

全国会議を対象に JR 仙台駅 2 階のウェルカムボード等へ歓迎表示を行った。

掲出会議：137 件

4. 多文化共生・国際交流に関する事業

多文化共生社会の形成を目的として、日本語教育やコミュニケーション支援などに関する各種事業を実施し、言葉や習慣などの異なる外国人住民が、自らの個性を活かしながら、地域の一員として活躍できる活力ある地域づくりを行った。また、ウクライナからの避難民に対して、仙台市と連携して相談対応や通訳などの支援を行った。

(1) 外国人市民支援事業

ア 日本語学習支援事業

生活に必要な日本語の習得を目的として、市民団体や関係機関との協働により、外国人住民のための日本語講座等を開催した。また、マンツーマンで日本語学習を支援する日本語ボランティアの研修及び活動支援を行った。

i. 日本語講座の開催

市民センターや市民団体との協働により、市内6か所に日本語学習支援の場をつくり、外国人住民が生活に必要な日本語の習得を支援した。

①せんだい日本語講座

(前期) 5月～10月 受講者：189名 / (後期) 11月～3月 受講者：197名

②日本語ティールーム(託児付き)(期間) 5月～3月 受講者：65名

③さっと日本語クラブ(小中学生対象)(期間) 5月～2月 受講者：47名

④その他の日本語学習支援団体に対する広報及び活動費の支援

外国人の子ども・サポートの会、泉日本語サロン、にほんごのもり

ii. 日本語ボランティアの活動支援

日本語学習の希望者に、学習支援のために日本語ボランティアを紹介するとともに、登録ボランティア向けの研修会を開催した。

①日本語ボランティア研修会

開催日：令和8年1月25日(日) / 場所：仙台観光国際協会会議室

テーマ：「つながる・語る ボランティア交流会」

講師：高橋 亜紀子 氏(宮城教育大学教授) / 参加者：18名

②日本語ボランティアの登録と学習者への紹介

登録者ボランティア数 83 名、学習者希望申込者数 22 名、学習を開始した学習者数 16 名

③市民団体が行う研修会への協力

iii. 地域日本語教育の体制整備【重点】

外国人住民の新たな学習ニーズに応える地域日本語教育の体制づくりのため、コーディネーターを配置し、下記のとおり実施した。

①総合調整会議

開催日：第 1 回 令和 7 年 9 月 8 日（月） / 第 2 回：令和 8 年 2 月 9 日（月）

内 容：大学、市民団体、外国人コミュニティ、日本語学校等の関係者を招集し、市内の日本語教育の現状と今後の方向性、関係機関の取組の共有と連携の検討などを議論した。

②地域日本語学習支援検討会

開催日：令和 8 年 2 月 16 日（月） / 出席者：市内 12 教室、関係者 20 名

内 容：地域日本語教室等関係者を対象とし、外国人住民や市内各教室の状況を共有するとともに、地域日本語教育の体制整備事業について取組み状況や方向性を説明した。

③オンライン教室

外国人住民の学習ニーズに対応するため、関係機関等と共催、協力しながら、入門レベルのオンライン教室を開催した。（10 回×2 期、受講者：33 名）

④子育て日本語教室

未就学児・小学校低学年児童の外国人保護者を対象とし、日本での子育てに必要な知識・情報と、関連した日本語力を身に着ける教室を新たに開催した。（全 6 回開催、受講者：57 名）

⑤就労者向け日本語教室

市内で就労する外国人の増加に伴い、職場でのコミュニケーションを円滑にすることを目的とした教室をオンライン・対面を組み合わせ実施した。（8 回×1 期、受講者 14 名）

⑥地域日本語教育セミナー

外国人就労者を取り巻く社会の変化と現状、就労者・就労先・地域社会に対する日本語教師の役割などの基礎知識を学ぶセミナーと、就労者のニーズに適した日本語教育を実践するためのワークショップを実施した。

開催日：令和 7 年 9 月 28 日（日） / 参加者：27 名

⑦日本語教師ボランティア養成講座

地域日本語教室で日本語を教えるボランティア養成講座を実施した。

（全 4 回、受講者：16 名）

⑧やさしい日本語関連事業

外国人就労者の受入事業所や市社会福祉協議会と連携し、地域で活動する人材や日本人従業員を対象にやさしい日本語研修を実施した。

・介護事業所職員向け研修

開催日：令和 7 年 8 月 1 日（金） / 参加者：15 名

・仙台市社会福祉協議会職員向け研修

開催日：令和 7 年 10 月 31 日（金） / 参加者：16 名

イ 生活支援事業

外国人住民が交通安全や防災、文化・習慣など日本での生活に必要なことについて学び、地域で安心・安全に暮らすためのオリエンテーション等を実施するほか、生活に必要な情報の翻訳と広報を行った。言語や習慣等の違いから学校生活や進学に困難を抱える外国につながる子どもとその家族を支援するため、ガイダンスや学習教室の開催、情報提供等を行った。また、困窮する外国人住民向けの情報発信、支援した。

i. コミュニティ通訳サポーターの募集・研修

行政窓口等で日本語と外国語の橋渡しをする「コミュニティ通訳サポーター」の登録、研修を行った。

ii. 生活オリエンテーションの開催

外国人住民が安心・安全に暮らすため、日本語講座、日本語学校、専門学校、大学等に出向いて生活オリエンテーションを行った。

① せんだい日本語講座「にほんごカフェ」

期 間：令和7年4月～令和8年2月（全4回） / 参加者：延べ49名

テーマ：仙台観光国際協会の紹介、災害・防災、ごみの分別、救急救命、消費生活、先輩外国人住民の経験談

② 出前講座：13回 / 参加者：延べ690名

iii. 生活情報の多言語化

健康、子育て、防災など外国人住民の生活に必要な情報を行政機関や市民団体と連携して多言語に翻訳・提供した。また、仙台市と協力して、生活困窮者支援や各種給付金等の情報も多言語化し発信した（全21件、主にベトナム語、ネパール語への翻訳）。内容は、市政だより、納税チラシ、定額減税給付金、外国人住民実態調査、市民税課封筒、生活、健康・子育て、税金年金、ごみ等。

iv. FM ラジオ多言語放送による情報発信

FM ラジオ4局の協力を得て多言語による情報発信を行った。平常時は季節の話題や生活情報を提供し、災害発生時には支援情報を提供するツールとして活用した。

放送時間：言語ごと月1回14分 / 内容：生活情報、イベント情報等

言語：英語、中国語、韓国語、やさしい日本語

協力：エフエムたいはく、fm いずみ、ラジオ3、エフエムなとり

v. 外国につながる子どもの支援

外国人児童生徒をはじめとする外国につながる子どもを支援するため、通訳や情報提供、学習支援のできるコーディネーターを学校等に派遣した。

① 「外国につながる子どもサポートせんだい相談デスク」

・相談事案数：148件（小学校100件、中学校39件、その他9件）

・コーディネーター、職員派遣数：109件（小学校85件、中学校24件）

・コーディネーターミーティング（オンライン）（令和7年6月13日（金）参加者：6名）

・日本語学習の教材の整備、貸出（新規貸出：12校、継続貸出：33校）

② 「日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス宮城2025」

開催日：令和7年8月2日（土） / 場所：東北大学川内キャンパス、Zoom

内 容：会場とオンラインで高校進学に関する情報提供、質疑応答を行った。参加者：61 名
③日本語を母語としない小中学生のためのオンライン教室

共 催：宮城教育大学 / 協力：宮城県国際化協会

内 容：Zoom を使用し、年度内 3 期、計 26 回開催し、教科学習や日本語学習支援を行った。
④外国人児童と家族のための小学校入学準備講座

令和 8 年 2 月 14 日（土）、小学校生活や準備物、子どもの学習に関する情報提供、言語別相談の場を開設し、13 家族 22 名が参加した。

vi. 外国につながる子どもの進路支援【重点】

①外国につながる生徒等のための高校見学会(公立学校編・私立学校編)

開催日：令和 7 年 11 月 4 日（火） / 場所：仙台大志高等学校

参加者：10 名（内訳：生徒等 5 名、保護者等 5 名）※うち学齢超過者 5 名

開催日：令和 7 年 11 月 21 日（金） / 場所：仙台育英学園高等学校

参加者：5 名（内訳：生徒等 2 名、保護者等 3 名）※うち学齢超過者 1 名

②外国につながる生徒等のための交流会

開催日：令和 7 年 12 月 21 日（日） / 場所：仙台観光国際協会会議室

参加者：26 名（生徒等 7 名、先輩サポーター 13 名、保護者 6 名）※うち学齢超過者 2 名

③進路支援ウェブサイト作成

内 容：日本の教育制度、高校進学制度や在留資格等

言 語：日本語、英語、中国語、ネパール語

vii. 多言語による防災情報発信及び防災訓練の実施

外国人住民への防災啓発を図るとともに、外国人住民の防災活動・災害時支援における市民協働を推進した。国見地区、南材地区等の地域防災訓練に参加・協力した。

①Date fm（エフエム仙台）防災番組「Sunday Morning Wave」への協力

番組内「Global Talk」のコーナーに出演するゲストについて、防災活動に取り組む外国人住民等を紹介し、番組制作に協力した。

放送日：毎月第 2 日曜日 / 番組名：防災情報番組 Sunday Morning Wave 内「Global Talk」

②防災探宝 Disaster Risk Reduction Treasure Hunt の開催

開催日：令和 7 年 6 月 14 日（土）

場 所：仙台多文化共生センター、片平地区各所、東北大学ユニバーシティハウス片平

内 容：東北大学災害科学国際研究所と連携し、防災知識や地域の防災拠点等を学ぶ座学及び宝探し形式のワークショップを実施した。外国人住民等 49 名が参加した。

③八本松児童館「あそぼうさい」

開催日：令和 7 年 9 月 27 日（土） / 場 所：八本松児童館

内 容：児童館事業にブース参加し、子ども向けの防災教室を開催した。参加者 63 名。

④仙台市消防局指令課外国人次対応研修への協力

開催日：令和 7 年 10 月 16 日（木） / 場所：仙台市消防局

内 容：119 番通報に対応する指令課職員 13 名を対象に、せんだい外国人防災リーダーや日本語学校の学生等 10 名の協力のもと、外国人からの通報のシミュレーション訓練を実施した。

⑤せんだい外国人防災リーダーミーティングの開催

開催日：令和7年8月24日（日）及び令和8年2月21日（土）

場 所：仙台観光国際協会会議室

内 容：防災リーダー登録者等18名が参加し、年度内の活動について情報共有するなどリーダー間のつながりを創出した。

⑥仙台防災未来フォーラムへの参加

開催日：令和8年3月14日（土） / 場所：仙台国際センター展示棟

内 容：宮城県国際化協会との共催で、多文化防災をテーマに丸森町役場と南材地区連合町内会及び日本語学校生を登壇者として招きパネルトークを行った。参加者：41名

viii. 留学生へのリサイクル自転車斡旋

留学生の生活支援を図るため、仙台市が回収した放置自転車を宮城県自転車軽自動車商業協同組合の協力により修理し、市民団体と協力して留学生に斡旋・販売した。

開催日：令和7年4月20日（日） / 場所：仙台多文化共生センター内研修室

申込者：76名 / 販売台数：40台

ix. ウクライナ避難民支援事業

避難民支援の調整員を配置し、仙台市に避難したウクライナ避難民からの問合せや相談に対応したほか、仙台市や関係団体が行う支援につなげるための調整及び翻訳・通訳支援を行った。

（2）災害時の外国人支援事業

ア 仙台市災害多言語支援センター運営事業

大規模災害発生時、外国人住民や旅行者など、言葉や習慣等の違いから情報が入手しにくく支援が受けられない恐れがある外国人被災者を支援するため、仙台市が設置する「仙台市災害多言語支援センター」の訓練・広報を行った。

i. 仙台市災害多言語支援センター設置・運営

令和7年度は設置なし

ii. 仙台市災害多言語支援センター設置運営訓練

開催日：令和8年2月6日（金） / 場所：仙台多文化共生センター会議室 / 参加者：21名

イ 災害時言語ボランティア育成事業

大規模災害発生時に外国人被災者の支援を行う市民ボランティアを「仙台市災害時言語ボランティア」として募集し、研修を行った。

i. 登録

登録者94名、対応言語24言語（複数言語登録あり）

ii. 研修会、訓練

①災害時言語ボランティアミーティングの開催

開催日：令和7年12月13日（土） / 場 所：仙台観光国際協会会議室

内 容：災害時言語ボランティア登録者等11名が参加し、協会の防災事業や今年度の活動について共有した。

②仙台市災害時言語ボランティア公開研修会（令和8年3月14日（土）仙台国際センター）

仙台防災未来フォーラム企画と兼ねて開催。災害時言語ボランティアと災害時の外国人支援に関心のある市民 41 名が参加した。

テーマ：「外国人と多文化防災～地域コミュニティ、留学生、技能実習生と共に～」

登壇者：丸森町役場、南材地区連合町内会、東洋国際文化アカデミー留学生（4 名）

（３）地域づくり支援事業

多文化共生社会の形成を目的として、学校や市民センターなどが実施する国際理解講座に対しての講師紹介やアドバイスをを行ったほか、多文化共生についての各種講座やイベントを実施した。また、多文化共生、国際交流、国際協力に関する市民活動に対して補助金を交付した。

i. 国際理解の推進

①学校、市民センター等が実施する国際理解事業への講師派遣及び情報提供

- ・登録者：95 名（36 の国・地域）
- ・派遣件数：25 件（小学校 20、児童館ほか 5）
- ・派遣講師：55 名
- ・参加者数：1,851 名

②国際理解プログラム勉強会の開催

開催日：令和 8 年 2 月 26 日（木） / 場 所：仙台観光国際協会会議室

内 容：国際理解ボランティア登録者 8 名が参加し、模擬授業や意見交換をした。

ii. 市民団体による多文化共生活動等の支援

市民の自主的な国際交流、国際協力、多文化共生等の活動促進を図るため、事業経費の一部を補助した。交付団体数：11 団体、交付額：777 千円

iii. 多文化共生講座の開催

区役所等で窓口を担当する職員および地域住民を対象として、外国人住民対応研修を実施した。

- ・仙台市職員対象（4 回開催／参加者 129 名）
- ・その他（15 回開催／参加者 254 名）

包括化推進員研修会、青葉区町内会長研修会、こども若者局運営支援課連絡会議、太白図書館職員、宮城野区内市民センター、花京院包括圏域ケア会議、介護事業者他

iv. 多文化共生の意識啓発

市内の外国人住民の状況や多文化共生活動に関する広報を行い、地域の多文化共生に関する意識啓発を行った。

①多文化共生パネルの作成・展示

②定禅寺アートストリート 2025「SenTIA 資料展」

開催日：令和 7 年 8 月 23 日（土）～9 月 7 日（日）

場 所：プレイスハンズビル 2 階他

内 容：多文化共生パネルの展示、留学生作成の冊子展示、動画上映/ 来場数：208 人

（４）人材育成事業

市民との交流や外国人支援に意欲のある外国人留学生を「せんだい留学生交流委員」として委嘱し、多文化共生にかかる各種事業への協力を得ながら、外国人住民と日本人住民が共に地域の課題について

考える機会を提供した。

i. 留学生による多文化共生活動の促進

協会や仙台市が行う諸事業への協力などの活動を行う「せんだい留学生交流委員」に外国人留学生を委嘱し、その活動のための奨励金を支給した。前期 18 名、後期 18 名。

活動内容：各種講座・ラジオ出演等、協会事業への協力、仙台市事業への協力

(5) 国際交流事業

国際姉妹友好都市等から訪れる市民団の受入等の事業により、市民の国際交流活動を促進した。

i. 海外から訪れる市民団との国際交流の促進

- ・ホストファミリーボランティア（登録者：83 家庭）

他団体が主催するホームステイ登録説明会の情報提供を行った。

- ・仙台国際ハーフマラソン大会 2025 国際姉妹都市等交流会（共催：仙台市）

令和 7 年 5 月 11 日（日）仙台国際ハーフマラソン大会の終了後に、江陽グランドホテルを会場に国際姉妹都市等交流会を開催し、各都市選手、市民等 146 名が参加した。

5. 調査・研究・広報・情報発信に関する事業

活力ある都市づくりに資することを目的として、仙台の観光及びコンベンション並びに多文化共生等、当協会が担う各事業において DX の活用も図りながら効果的な調査・研究・広報・情報発信を行うことにより、各分野における事業を推進した。

(1) 調査・研究・広報事業

ア 観光・コンベンション等に関する調査・研究・広報事業

観光振興に活用するため、観光客の動向等各種調査・研究を行った。その他、コンベンション誘致活動に活かすため、コンベンション関係者へのアンケート調査、情報交換等の実施および各種大会のデータ集約、分析を行うとともに広報物を発行した。

i. デジタルマーケティングの推進【重点】

仙台市観光 DMP（データマネジメントプラットフォーム）の保守運用管理業務を実施したほか、DMP の各種データや WEB アンケートの結果を取りまとめた「SenTIA マーケティングレポート」を計 4 回作成し、HP 掲載や賛助会員への発信等、情報提供を行った。

ii. DMO の推進【重点】

令和 7 年 3 月に改定された新たなガイドラインを踏まえた計画等の調整・KPI の設定に取り組んだ。

iii. インバウンド向け満足度調査【重点】

仙台市内に訪れる外国人観光客に対して、属性や消費額、満足度など、DMO として掲げている目標値・KPI に係る調査を計 4 回（春、夏、秋、冬）実施し、合計 740 名から回答を得た。調査結果については、SenTIA マーケティングレポートより地域事業者等へ情報提供を行った。

iv. 観光 DX 事業の推進【重点】

観光 DX 事業として、デジタルスタンプラリーの実施や、地域 OTA（オンライン旅行代理店）機能を追加した観光情報サイト「せんだい旅日和」のリニューアルなどを行った。

- v. コンベンション施設関係者等との情報交換会の開催
 - ・コンベンション施設関係者情報交換会
第1回：令和7年6月25日（水）9名出席 / 第2回：令和8年2月18日（水）10名出席
 - ・コンベンション業務サポーター情報交換会
令和7年7月23日（水）10名出席
- vi. コンベンションカレンダーの作成
仙台のコンベンション等開催情報の提供を目的としたカレンダーを作成し、関係者へ提供した。
令和7年度下期版 10月発行 / 令和8年度上期版 3月発行
- vii. JCCB(日本コンgresコンベンションビューロー)・JNT0(日本政府観光局)を活用した調査・研究
JCCB・JNT0から発信される情報を収集するとともに、全国のコンベンション関係協会と情報交換を行った。
 - ①JNT0への国際会議開催情報の収集と実績情報の提供
 - ②JCCB事業（総会、ビューロー部会）への参加
 - ③JCCBデータライブラリを活用したマーケティング活動
- viii. 東北地区コンベンション推進協議会における調査広報
東北全体でのコンベンション活性化を目的とし、東北地区コンベンション推進協議会の運営、事業を行った。
 - ・総会 期間：令和7年7月3日（木）～4日（金） / 会場：伝国の杜（米沢市）
 - ・研修会 期間：令和7年10月23日（木）～24日（金） /
会場：仙台市中小企業活性化センター（仙台市）
- ix. コンベンション開催情報の収集及びデータベース化
コンベンション開催状況及び営業用情報の把握に向け、データシステムの運用より収集した大会等のデータベース化を行った。
- x. 各種コンベンション関係情報の発信
研究者、主催者、地元開催関連事業者等を対象に、コンベンション関連情報を掲載したメールマガジンを6回発行した。
- xi. コンベンションアンケート調査の実施
コンベンション開催助成対象会議を中心に、コンベンション参加者アンケート調査を実施し、報告書を作成した。対象件数：30件 総回答数：586名
- xii. 仙台観光コンベンションセミナーの開催
訪日外客数が過去最高を記録する中、東北のシェア拡大が課題となっている現状を踏まえ、仙台空港への高雄・バンコク便就航を機に、インバウンド誘致における具体的な取り組み事例や成功のヒントを共有し、明日から即実践できる具体策を提示することを目的に「仙台インバウンドセミナー」を開催した。
開催日：令和8年2月26日（木） / 場所：ホテルメトロポリタン仙台
内 容：第一部は、DMO事業報告会及び「インバウンド4,000万人時代の幕開け ～仙台・東北の魅力を価値に変えるヒント～」をテーマにパネルディスカッションを、第二部は交流会を実施した。

コーディネーター：株式会社ライフブリッジ 代表取締役 櫻井 亮太郎 氏

参加者：第一部 70 名 / 第二部 31 名

イ 多文化共生等に関する調査研究広報事業

多文化共生社会の形成及び国際交流や国際理解などに関する様々な事業を推進するため、地域の現状及び各種課題に関する調査・研究及び市民の理解促進を図るための広報事業を行った。また、外国人住民向けに仙台市からのお知らせや各種生活情報を多言語化し、様々なツールで広報した。

i. 多文化共生等に関する調査研究

多文化共生等にかかる現状、課題、今後の方向について調整・研究を行うほか、各種協議会や研修会への参加を通して、関係機関とのネットワーク構築を図った。

- ・地域国際化協会連絡協議会総会（令和 7 年 7 月 24 日（木）・25 日（金）盛岡市）出席
- ・（一財）自治体国際化協会等が行う各種研修への出席

ii. 多文化共生等に関する広報

メールマガジン、SNS を通して事業を広報し、多文化共生に関する意識啓発を行った。また、他団体からの依頼により職員を派遣し、防災や多文化共生の取り組みを紹介した。

①「国際化事業部ホームページ」運営

ブログ、Facebook、Twitter（日、英、中、韓、ベトナム、ネパールの 6 言語）

②「メールマガジン SenTIA メール」配信（日、英、中、韓、ベトナム、ネパールの 6 言語）

登録者：2,965 名 / 配信数：165 件

③事業広報等のための講師派遣、会議出席等

派遣回数：15 回 / 内容：防災・多文化共生について

ウ 専門委員会調査研究事業

各事業の推進及び活性化を目的に、各専門員会を設置し、外部有識者等からの意見・提言等を各施策等に反映させるため専門員会を開催した。

i. 観光専門委員会

①第 1 回観光専門委員会

開催日：令和 7 年 9 月 8 日（月） / 場所：仙台観光国際協会会議室 / 出席者：11 名

内 容：「令和 8 年度事業について」をテーマに、受入環境整備、情報発信、コンテンツ創出をキーワードに意見交換を行った。新たに設置されたインバウンド部会からの意見を踏まえ、各委員から令和 8 年度事業に向けた取り組みについてご意見をいただき、観光地としての価値を高める施策や、閑散期対策、情報発信の強化などを次年度施策に反映させることとした。

②第 1 回インバウンド部会

開催日：令和 7 年 9 月 1 日（月） / 場所：仙台観光国際協会会議室 / 出席者：7 名

内 容：「令和 8 年度以降のインバウンド推進に向けた事業展開に関して」をテーマに意見交換を行い、閑散期対策では柔軟な宿泊キャンペーン設計、滞在延長策ではナイトコンテンツ創出、季節イベントの競合を避けた時期の実施、1DayTour の充実、ローカル体験の磨き上げが重要等の意見をいただいた。引き続き協会としても観光コンテンツ

の造成、磨き上げを努めていくこととした。

ii. コンベンション推進専門委員会

①第1回

開催日：令和7年7月10日(木) / 場所：仙台観光国際協会会議室 / 出席者：9名

内 容：「施設の不足を補う仙台らしいMICE開催とは？」をテーマに意見交換を行った。仙台市内の施設の不足等により予約が取れなかった機会損失案件が増えている課題について解決策を探った。分散開催により経費が増してもなお仙台で開催したいという気持ちになれる魅力的な提案が出来るようになると良い等の意見をいただいた。国際センター閉館中に市内公共施設や文化施設を活用した分散開催の事例を重ね、より幅のある仙台らしいMICE提案をしていくこととした。

②第2回

開催日：令和8年3月13日(金) / 場所：仙台観光国際協会会議室 / 出席者：10名

内 容：「MICEの認知度を上げるためには」と「MICEにおけるサステナビリティの促進」と2つのテーマで意見交換を行った。MICEという言葉の普及にこだわる必要はないのではないか、学生を対象に出前授業を行って地道に周知することが大切等の意見が出た。サステナビリティについては、意識せず実践している事もあるので、改めて見直してみることも必要との意見をいただいた。ご意見を反映して令和8年度事業に活かしていくこととした。

iii. 物産専門委員会

開催日：令和7年9月11日(木) / 場所：仙台観光国際協会会議室 / 出席者：10名

内 容：「物産業界の人材不足等」をテーマに意見交換を行った。人材不足を抱えている事業者が多いため、催事の開催方法の検討や、外国人を含めた人材確保に向けた取り組みが必要である等の意見が出され、引き続き、そうした意見を参考に事業を進めていくこととした。

iv. 国際化専門委員会

①第1回

開催日：令和7年6月23日(月) / 場所：仙台観光国際協会会議室 / 出席者：9名

内 容：仙台市における外国人住民の状況について報告し、「外国につながる子どもの進路支援事業、生活オリエンテーション事業」について意見交換を行った。新規事業である「外国につながる子どもの進路支援事業」においては、学齢超過の問題や親の都合で学校に入れない子ども達の状況について委員それぞれの立場から意見が出され、実態把握に努めながら事業を進めることとした。

②第2回

開催日：令和8年2月25日(水) / 場所：仙台多文化共生センター会議室 / 出席者：5名

内 容：仙台市が実施した「令和7年度仙台市外国人住民実態調査」について報告し、「地域日本語教育の体制整備事業、外国につながる子どもの進路支援事業」について意見交換を行った。「地域日本語教育の体制整備事業」においては、「日本語教室の対象者の設定や広報手段について工夫が必要」等の意見が出され、今後、様々なネットワークを活用して、効果的な日本語教育の推進に努めていくこととした。

(2) 情報発信事業

国内外の観光客の誘致を目的に、仙台の最新の観光情報やイベント情報等を広く国内外に向けて発信した。また、当協会の機関紙を定期的に発行することで、当協会の事業活動内容の周知を図った。

i. 日本語版及び多言語版観光マップの作成【重点】

- ・仙台観光マップの作成及び配布 227 千部（令和 7 年 6 月発行）
- ・多言語版観光マップ「SENDAI TOURIST MAP」作成 53 千部（英、繁体、タイ）
- ・多言語版観光マップ「SENDAI TOURIST MAP」R5 年度版 増刷 25 千部（英、簡体、韓）

ii. プロモーション用外国語観光ガイドブックリニューアル事業【重点】

- ・「SENDAI GUIDEBOOK」作成 47 千部（英、簡体、繁体、韓、タイ）

iii. 仙台市観光情報サイト「せんだい旅日和」による情報発信

仙台市の観光、イベント情報、関連する役立ち情報等を紹介する WEB サイトの運営、管理を行ったほか、各 SNS（インスタグラム、X、Facebook）でも情報発信を行い、ターゲットに合わせた情報発信の強化を図った。

- ・総ページビュー数：年間 7,130,574 件

iv. 仙台観光情報サイト「せんだい旅日和」のリニューアル及びOTAやCRM（顧客関係管理システム）機能の追加【重点】

仙台市観光情報サイト「せんだい旅日和」を全面リニューアルし、地域 OTA(オンライン旅行代理店)機能、観光 CRM（顧客関係管理システム）導入のほか、「仙台旅先体験コレクション」及び「仙台夜時間」の統合を実施し、令和 8 年 1 月 28 日（水）より運用を開始した。

v. 機関紙「SenTIA」の発行

①機関誌 SenTIA 17 号の発行及び賛助会員名簿の発行

発行部数：1,000 部

※機関誌 SenTIA 17 号は、会員専用 HP および協会 HP にも掲載

②会員ホームページやメール配信を活用した情報提供

会員専用 HP にマーケティングデータの公開コーナーを設置し、各種調査データを公開した。

③事業案内の作成

理事会・評議委員会のほか、新規で賛助会員への入会を検討している方等向けに作成し、配布した。

vi. 首都圏案内所等での情報発信【重点】

外国人観光案内所「TIC TOKYO」（東京駅日本橋口）において、仙台の観光案内パンフレットの配架、ポスター掲示及び毎月 1 回 SNS による日・英両言語の記事発信を行ったほか、東京都庁、新宿、浅草などの観光案内所においてもパンフレットを配架した。また、首都圏における情報発信拠点の状況調査を実施した。

6. 情報提供・相談対応に関する事業

情報提供や交流促進を担う各種施設を円滑に運営することにより、地域の観光の発展と国際交流・多文化共生の促進を図った。

(1) 仙台市観光情報センター等運営事業

仙台・宮城への来訪者はもとより、仙台を起点として東北や全国各地を訪問する国内外からの観光客

等を対象に、JR 仙台駅において市内や東北広域、あるいは全国主要都市等の観光情報の提供及び相談案内を多言語で実施した。

	年間利用実績（4 月～3 月）※営業日数：365 日
日本人	69,830 名（前年度比 83.6%）
外国人	19,815 名（前年度比 94.7%）
計	89,645 名（前年度比 85.9%）

※仙台市観光情報センターは令和 7 年 11 月 27 日（木）、JR 仙台駅 3 階みどりの窓口内に移転。

（２）仙台多文化共生センター運営事業

多文化共生に関する一元的相談窓口として仙台多文化共生センターを運営し、関係機関との連携により外国人市民からの様々な相談に対応したほか、文化・習慣・言語の違い等、多文化共生の地域づくりに関わる情報提供や相談対応を行った。

i. 仙台多文化共生センターの運営

市民団体との協働により、外国人住民の生活に関する情報提供および相談対応した。

- ・開館日数（相談対応日数）：342 日
- ・相談受付数：3,114 件（前年度比 96.8%）

ii. 外国人のための専門相談会

外国人住民からの専門的な知見を必要とする相談に対しては、専門機関の協力を得て相談会を開催した。

協力機関：仙台出入国在留管理局、仙台弁護士会、東北税理士会、宮城県行政書士会、宮城労働局、仙台市起業支援センターアシスタ

相談実績：90 件

iii. 行政窓口等におけるコミュニケーション支援

外国語相談員及び通訳サポート電話の活用及び行政窓口等にコミュニティ通訳サポーターを派遣し、外国人住民を支援した。

- ①外国語相談員（中、台、韓、ベトナム、ネパール）
- ②通訳サポート電話（英、中、韓、ベトナム、ネパール等 22 言語、実績：1,082 件）
- ③コミュニティ通訳サポーター 登録者数：74 名（21 言語）

派遣実績：199 件（小 90、保育・幼稚・こども園 28、中 25、アーチル 11、支援学校 10 他）

iv. 国際活動に関わる団体の支援

多文化共生・国際交流・国際協力等の活動を行う団体の情報を収集・提供したほか、登録団体に対して活動場所を提供し、事業の広報に協力した。団体登録数：138 団体

v. 『仙台生活便利帳』（仙台市発行）の編集

令和 8 年 3 月発行：5 言語計 57,000 部（英、中（簡）、韓、ベトナム、ネパール）
Web 版（ウクライナ、ロシア、中国語（繁））

vi. 広報誌等発行

- ①仙台多文化共生センターだより 年 2 回発行

1 回につき日本語版 1,000 部、英語版 600 部、中国語版 550 部、韓国語版 550 部、ベトナム語版 550 部、ネパール語版 600 部

②仙台多文化共生センターリーフレット

多言語併記（日、英、中（簡・繁）、韓、ベトナム、ネパール）2,000部

③「外国人のための専門相談会」チラシ

多言語併記（日、英、中（簡・繁）、韓、ベトナム、ネパール）5,000枚

〔収益事業〕

1. 観光駐車場等管理運営事業

仙台を訪れる観光客の利便を図るため、観光駐車場等の管理運営を行った。

利用実績

	令和7年4月1日～令和8年3月31日
利用台数	23,647台(前年度比100.7%)
利用金額	13,094,500円(前年度比99.2%)

2. 物産・銘産品等販売事業

仙台で開催されるコンベンションや県内外で開催される催事、関係都市等での観光プロモーション、観光関連施設等において、仙台の物産品等の販売を実施し販路拡大を図るとともに、物産品等のオンライン販売を通じ、販売機会の創出と認知度の向上を図った。また、仙台の物産・銘産品の消費拡大に資する取り組みを行った。

i. 観光PR物品の製作・販売

るーぷる仙台チョコQについては、（茄子紺）を追加制作し販売した。また、新たな当協会のオリジナル商品として、るーぷる仙台沿線の観光地等と「仙台弁こけし」をデザインした「仙台観光亚克力キーホルダー」を製作し、カプセルトイでの販売を開始した。尚、名刺台紙については令和7年度で販売を終了した。

品 名	令和7年4月1日～令和8年3月31日
るーぷる仙台チョコQ	5,134,686円(前年度比83.1%)
名刺台紙	2,200円(前年度比33.3%)
仙台観光亚克力キーホルダー	552,612円

ii. オンラインによる物産販売【重点】

オンラインショップ「伊達な銘品横丁」を活用し、仙台の工芸品や食品等のオンライン販売及び紹介を行うと共に、関係団体による仙台の物産品の販売機会の創出、認知度の向上を図った。他業種連携による「仙台名物こけし」や、オリジナル商品の「仙台弁こけしコースター」の販売も行った。

販売収入	2,624,110円（前年度比143.1%）
------	------------------------

iii. 物産品の催事販売

仙台で開催されるコンベンションや県内外で開催される催事等において、仙台の物産・銘産品を販売し、物産振興と販路拡大を図った。

販売収入	798,170円（前年度比96.6%）
------	---------------------

3. 観光関連業務受託等事業

観光客の利便性の向上及び交流人口の拡大を目的に、観光関連業務を受託する等、観光振興に資する取り組みを行った。

i. るーぷる仙台一日乗車券販売手数料

販売収入	28,691 円
------	----------

ii. 青葉まつり有料桟敷席販売運営受託

令和7年5月17日（土）～18日（日）に開催された仙台青葉まつりにおいて、有料桟敷席等の販売運営業務を受託し実施した。

- ・有料観覧席販売数：SS席 112名(4名席 25テーブル、2名席 6テーブル)、S席 160名、A席 694席、B席 274席、A車椅子席 16席
- ・インバウンド向け仙台すずめ踊りレクチャー体験：63名

受託料収入	2,817,994 円
販売手数料収入	306,350 円

※販売手数料率（チケット・体験販売総額の5%）

Ⅱ. 認定法第 21 条第 4 項に掲げる事項

1. 令和 7 年度における公益目的事業の実施状況

(1) 公益目的事業の実績

I. 公益財団法人仙台観光国際協会 令和 7 年度事業報告を参照

(2) 公益性を確保するための取組の実績

事業報告の附属明細書を参照

2. 当法人の運営体制の充実を図るための取組

(1) 公益法人内部における規範

年に 1 回「倫理・サービスチェックシート」を用い、全職員にコンプライアンスチェックを行い、代表理事及び業務執行理事に報告を行っている。

(2) 公益法人の業務執行における取組

外部の専門家に助言等を仰いでいる。

ア 事業全般

外部有識者等で構成された観光専門委員会、物産専門委員会、コンベンション推進専門委員会、国際化専門委員会における意見・提言を踏まえて、各施策に反映させている。

イ 会計全般

新公益法人制度への対応について、公認会計士等の専門家に助言を仰いでいる。

附属明細書

公益性を確保するための取組

※表中の「計画」は、宮城県提出書類「2.個別の事業の内容について（1）公益目的事業について」の区分ごとのチェックポイントに対しての説明より引用

【公益目的事業 1】

	No.	計画（チェックポイントからの引用）	実 績
講座、セミナー、育成	1	すべての講座等は仙台市への観光客・コンベンション誘致の促進並びに地域における多文化共生社会の形成及び国際交流等の交流活動の推進に関する事業として位置づけるとともに、ホームページ等で公開している。参加要件を定める場合は、要件を明示の上、公募している。また、テーマに応じて専門家を講師として招請する、事後アンケートをとるなどし、事業の質の確保に努めている。講師等に対する報酬は、仙台市が定める講師等謝礼基準に準拠し、これを超えないように定めている。	チェックポイントの記載のとおり実施した。
体験活動等	2	すべての体験活動は、その主たる目的を法人の事業計画において、仙台市への観光客誘致の促進並びに地域における多文化共生社会の形成及び国際交流等の交流活動の推進に関する事業として位置づけるとともに、ホームページ等で公開している。 いずれの体験活動も、明確な公益目的のもと実施し、販売や業界団体の宣伝等を行っていない。また長年実績のある団体や、各分野の専門家の協力を得て実施している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。
相談、助言	3	教育旅行受入促進のための相談、助言においては仙台へ教育旅行で訪れようとするすべての者に利益の増進が図られ当該事業の実施により、仙台市へ観光客誘致が促進され、その結果、当該地域の観光が発展し、当該地域の地域社会の健全な発展が実現されるため、不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。実施については事業の目的・趣旨をホームページ等で公表している。情報提供については、旅行会社や受入観光施設等と連携を図りながら実施している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。
	4	多文化共生、国際交流における相談、助言については、地域における多文化共生社会の形成及び国際交流等の交流活動の推進に関する事業として位置づけるとともに、ホームページ等で公開し、ホームページ（多言語）、チラシ（多言語）、広報紙等で周知に努めている。また行政情報の提供については、仙台市、宮城県、入国管理局等の行政機関と密接な連携のもと実施している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。
調査、資料収集	5	観光客に関する調査や情報収集並びに仙台市内で開催されるコンベンション等においてコンベンションに関する調査・資料収集を行うことにより、観光客受入れ体制の強化、コンベンション開催件数の増加により当該地域の観光の発展と、地域社会の健全な発展が実現されることとなる。当該事業については事業の目的・趣旨及び調査結果をホームページ等で公表している。また、必要に応じ、製本し一般に閲覧することができるようにしている。 調査・研究のテーマに応じ、専門家のアドバイスを受け、外部委託する際は、仕様書等を作成の上、綿密な打ち合わせを経ながら実施している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。

調査、資料収集	6	多文化共生等に関する調査研究広報事業において、その主たる目的を地域における多文化共生社会の形成及び国際交流等の交流活動の推進に関する事業として位置づけるとともに、ホームページ等で公開している。調査・研究の結果は、すべて公開するものとし、協会のホームページ等に掲載している。また、必要に応じ、製本し一般に閲覧することができるようにしている。調査・研究のテーマに応じ専門家のアドバイスを受けながら実施している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。
キャンペーン、 ○○月間	7	観光振興に関する国内プロモーション事業は、仙台・宮城を訪れようとするすべての者に対し利益の増進が図られるものとして位置づけており、ポスター、チラシ、WEBページ等により告知されている。 実施するプログラムは全て、当該地域の観光の発展とそれによる地域社会の健全な発展を目的としたものとなっている。	チェックポイントの記載のとおり実施した。
資金貸付、債務保証等	8	仙台市内で開催されるコンベンションの実施に係る経費について資金貸付を行うものであり、当該事業の実施により、仙台市へのコンベンションの誘致が促進され、その結果、当該地域の観光が発展し、当該地域の地域社会の健全な発展が実現されることとなる。当該事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。また、当該事業については事業の目的・趣旨、並びに貸付件数及び金額をホームページ等で公表している。貸付対象者は、仙台市内でコンベンションを開催しようとする者であり、観光の発展という事業目的に合致する。連帯保証人2名を設けることを貸付の条件とし、貸付金の返済に支障のないようにしている。	令和7年度は新規申し込み、貸付中案件いずれもなし。
助成（応募型）	9	仙台市内に観光客を誘致するための活動経費を助成対象とするものであり、当該事業の実施により、仙台市への観光客誘致が促進され、当該地域の観光が発展し、地域社会の健全な発展が実現されることとなる。当該事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与するものであり、事業の目的趣旨をホームページ等で公表している。対象者は、仙台市内に観光客を誘致しようとする全ての者であり、応募条件はホームページ等で公表しており、すべての基準を満たしていることを条件に選考している。交付基準は、客観的かつ明確に定められており、条件を満たす申請について、先着順に予算の範囲で交付を決定するものであることから、公平性は担保されている。助成対象者に対して、事業終了後に報告書の提出を義務づけているとともに助成件数及び金額をホームページで公表している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。

助成（応募型）	10	仙台西部地区の観光振興にかかる活動経費を助成対象とするものであり、当該事業の実施により、仙台市への観光客誘致が促進され、その結果、当該地域の観光が発展し、当該地域の地域社会の健全な発展が実現されることとなる。したがって、当該事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。当該事業については目的趣旨をホームページ等で公表しており、助成対象者は、仙台市内に観光客を誘致しようとする全ての者である。 助成の審査を行う各審査会の委員には、申請者又は申請者と関係を有することがない者、行政、マスコミ関係者、商工会議所等、幅広い分野から豊富な知識・経験を有する者を委嘱し、審査の公平性を確保し適切に審査を行い、助成を決定している。 助成対象者に対して、事業終了後に報告書の提出を義務づけており、助成件数及び金額をホームページで公表している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。 委員は、 ・一般社団法人日本旅行業協会 東北支部 事務局長 高橋 洋 ・一般社団法人東北観光推進機構 地域戦略部長 佐藤 一彦 ・株式会社七十七銀行 地域開発課 リーダー 小野寺 智也 ・仙台市文化観光局観光交流部観光戦略課 企画調整担当課長 渡辺 宗太
	11	仙台的工芸振興を目的に行われる展示会を開催するための経費の一部を助成対象とするものである。当該事業の実施により伝統的工芸品の文化振興が促進され、観光が発展し、当該地域の社会の健全な発展が実現されることとなる。当該事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与するものであり、事業の目的・趣旨をホームページ等で公表している。助成対象者は、工芸振興を目的として展示会を開催しようとする全ての者である。応募条件はホームページ等で公表しており、すべての基準を満たしていることを条件に選考している。交付基準は、客観的かつ明確に定められており、条件を満たす申請について、先着順に予算の範囲で交付を決定するものであることから、公平性は担保されている。助成件数及び金額をホームページで公表しており、助成対象者に対して、事業終了後に報告書の提出を義務づけている。	令和7年度は申請なしにつき、実施なし。
	12	仙台市内で開催されるコンベンションの実施に係る経費を対象とするものであり、当該事業の実施により、仙台市へのコンベンションの誘致が促進され、人流が増えることにより、当該地域社会の活性化と健全な発展が実現されることとなる。したがって、当該事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。また、当該事業については事業の目的・趣旨・選考基準並びに選考プロセスを事前に明確化しホームページ等で公表している。助成対象者は、仙台市内でコンベンションや企業系会議・報奨旅行を主催または携わる法人・団体のすべての者であり、募集情報はホームページ等で公表している。助成の審査を行うコンベンション助成審査会の委員には、申請者又は申請者と関係を有することがない者、行政、マスコミ関係者、商工会議所等、幅広い分野からコンベンションの開催に関する豊富な知識・経験を有する者を委嘱し、審査の公平性を確保したうえで、適切な審査を行い、助成を決定している。また助成対象者に対して、事業終了後に報告書の提出を義務づけており、助成件数及び金額をホームページで公表している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。 審査委員は、 ・仙台市文化観光局観光交流部長 高橋 みちる ・仙台商工会議所中小企業支援部長 白鳥 裕之 ・宮城県経済商工観光部観光戦略課長 松本 裕紀 ・当協会副理事長 岩間 文貴 ・協会コンベンション推進専門委員会委員長（河北新報社事業局長）畑 俊之

助成（応募型）	13	仙台市内で開催されるコンベンションの実施に係る経費を対象とするものであり、当該事業の実施により、仙台市へのコンベンションの誘致が促進され、人流が増えることにより、当該地域社会の活性化と健全な発展が実現されることとなる。したがって、当該事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。また、当該事業については事業の目的・趣旨・選考基準並びに選考プロセスを事前に明確化しホームページ等で公表している。助成対象者は、仙台市内でコンベンションや企業系会議・報奨旅行を主催または携わる法人・団体のすべての者であり、募集情報、応募条件はホームページ等で公表している。すべての基準を満たしていることを条件に選考している。交付基準は、客観的かつ明確に定められており、条件を満たす申請について、先着順に予算の範囲で交付を決定するものであることから、公平性は担保されている。 助成対象者に対して、事業終了後に報告書の提出を義務づけており、助成件数及び金額をホームページで公表している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。
	14	仙台市内の市民団体が行う多文化共生、国際交流、国際協力事業の活動経費を助成対象とするものである。当該事業の実施により、地域における多文化共生社会の形成及び国際交流活動等が促進され、当該地域社会の健全な発展が実現されることとなる。したがって、当該事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与するものである。また、当該事業については事業の目的趣旨をホームページ等で公表している。助成対象者は、仙台市内で活動する全ての市民団体であり、募集情報はホームページ等で公表している。助成の審査を行う審査会の委員には、申請者又は申請者と関係を有することがない者で大学、市民活動支援団体、行政等、幅広い分野から豊富な知識・経験を有する者を委嘱し、審査の公平性を確保したうえで、適切な審査を行い、助成を決定している。助成対象者に対して、事業終了後に報告書の提出を義務づけており、助成件数及び金額をホームページで公表している。	チェックポイントの記載のとおり実施した。 審査委員は、 ・仙台ボランティア英語ガイド GOZAIN代表 佐藤 実 ・仙台市市民活動サポートセンター副センター長 松村 翔子 ・東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター准教授 渡部留美 ・仙台市文化観光局交流企画課交流推進担当課長 柴又ひとみ ・当協会国際化事業部長 小松 卓司
その他	15	上記に該当しない当協会の事業は仙台市・宮城県へのコンベンションの誘致及び観光客の誘客と国際交流活動の推進が図られ、当該地域における観光の発展と多文化共生社会の形成がなされることから、当該事業は地域社会の健全な発展に資するものである。これらの事業の実施により、仙台市・宮城県へのコンベンションの誘致及び観光客の誘客と国際交流活動の推進が図られ、当該地域における観光の発展と多文化共生社会の形成がなされることから、当該事業の受益者は地域社会全体であり、受益の機会は広く開かれている。 事業の実施にあたっては、外部有識者等で構成された観光専門委員会・物産専門委員会・コンベンション推進専門委員会・国際化専門委員会における意見・提言を踏まえて、各施策に反映させている。また、仙台市災害多言語支援センター運営に関しては、東日本大震災において果たした役割等について検証し、その反省も踏まえつつ、今後とも設置・運用訓練等を行い、災害時に十分な役割が果たせるよう努めている。	1. 観光専門委員会 ・委員長 仙台商工会議所中小企業支援部部长 白鳥 裕之 ・委員 秋保温泉旅館組合（株）緑水亭若女将 高橋 知子 作並温泉旅館組合（株）一の坊HRマネージャー 小野寺 裕史 仙台国際空港（株）取締役 航空営業部長 小川 光 仙台市文化観光局観光交流部観光戦略 観光戦略課課長 日下 和彦 仙台ホテル総支配人協議会副会長（仙台国際ホテル（株）常務取締役 総支配人） 佐々木 清史 （一社）東北観光推進機構推進本部長代理 田 利彦 （一社）日本旅行業協会東北支部事務局長 橋 洋 東日本旅客鉄道（株）東北本部マーケティング部地域連携ユニットユニットリーダー 戸田 憲介 （一社）まちくる仙台 代表理事 石井 光二 （公社）宮城県観光連盟事務局長 仲鉢 和彦 宮城県タクシー協会仙台地区総支部常任理事・経営委員（（有）高砂タクシー代表取締役） 板垣 博 （公社）宮城県バス協会事務局長 岡野 雅昭

その他	15	上記に該当しない当協会の事業は仙台市・宮城県へのコンベンションの誘致及び観光客の誘客と国際交流活動の推進が図られ、当該地域における観光の発展と多文化共生社会の形成がなされることから、当該事業は地域社会の健全な発展に資するものである。これらの事業の実施により、仙台市・宮城県へのコンベンションの誘致及び観光客の誘客と国際交流活動の推進が図られ、当該地域における観光の発展と多文化共生社会の形成がなされることから、当該事業の受益者は地域社会全体であり、受益の機会は広く開かれている。 事業の実施にあたっては、外部有識者等で構成された観光専門委員会・物産専門委員会・コンベンション推進専門委員会・国際化専門委員会における意見・提言を踏まえて、各施策に反映させている。また、仙台市災害多言語支援センター運営に関しては、東日本大震災において果たした役割等について検証し、その反省も踏まえつつ、今後とも設置・運用訓練等を行い、災害時に十分な役割が果たせるよう努めている。	2. 物産専門委員会 ・委員長 （株）鐘崎代表取締役 嘉藤 明美 ・委員 仙台筆笥協同組合副理事長 長谷部 嘉勝 （株）堤焼乾馬窯役員 針生 嘉和 平賀こけし店代表 平賀 輝幸 民芸工房たかはし代表 高橋 昭倫 （有）東北工芸製作所 常務取締役 佐浦 みどり （株）白松がモナカ本舗 常務取締役早坂 業 （株）味崑屋 代表取締役 阿部 泰基 （有）日立家 代表取締役 森 康仁 井ヶ田製茶(株)代表取締役 今野 克二 岡田食品工業(株)常務取締役 岡田 英大 （株）キスケフーズ代表取締役社長 大川原 卓磨 仙台商工会議所経営支援グループ産業振興支援担当課長 加藤雄三 仙台市文化観光局 観光交流部観光戦略課長 日下 和彦 仙台市経済局産業政策部中小企業支援課長 佐藤 幸輝
			3. コンベンション推進専門委員会 ・委員長 （株）河北新報社事業局長 畑 俊之 ・委員 青葉山コンソーシアム 営業・企画部 誘致広報課 課長神崎 友紀 国立大学法人東北大学 総務企画部広報室長 溝部 鈴 東日本旅客鉄道（株） 東北本部東北営業ユニットユニットリーダー 加藤 悟 仙台国際ホテル支配人代理 佐々木 貴城 ホテルメトロポリタン仙台セールスマネージャー 鎌田美恵子 宮城県タクシー協会仙台地区総支部 副支部長 桃野 智文 日本コンベンションサービス(株)東北支社 支社長 三崎 拓哉 （株）コングレ東北支社長 高橋 篤彦 （株）J T B 仙台支店 営業二課長 西村 隆弘 近畿日本ツーリスト(株)仙台支店長 伊藤 亮嗣 仙台商工会議所中小企業支援部次長 伊藤 亨 仙台市文化観光局 観光交流部 インバウンド・MICE推進課 課長大内 和音
			4. 国際化専門委員会委員 ・委員長 国立大学法人宮城教育大学教育学部国際教育領域教授 市瀬 智紀 ・委員 仙台国際日本語学校校長 今江 寿史 （公財）宮城県国際化協会総括マネージャー 大泉 貴広 高松通町内会会長 佐々木矢一朗 東洋ワーク株式会社執行役員国際事業部長 里見 誠 仙台市文化観光局交流企画課交流推進担当課長 柴又ひとみ 仙台出入国管理局審査第二部門統括審査官 千葉 秀徳 宮城華僑華人女性聯誼会代表 朴 仙子 国立大学法人東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター准教授 渡部 留美